

『時代を変えた科学者の名言』

藤嶋 昭／編著 東京書籍（2011年）

科学って難しい、とっつきにくいと感じている人が多いのではないのでしょうか。「好きこそものの上手なれ」。まずは興味をもつことからはじめませんか。この本で心に突き刺さる、または心震わす言葉と出あえるかもしれません。それを言った科学者がいつの時代でどんなことをしたのかも紹介しているので、その人について調べていくと、科学に対する苦手意識が知らない内に消えるかもしれません。

『「2℃の違い」を知る絵本』

身近な「温暖化」も、地球の「温暖化」も』
佐伯 平二／文 おおの 麻里／イラスト
青春出版社（2008年）

「2℃の違い」ってたいしたことはないと思いませんか？ところが、そうじゃないんです。2℃違うだけで、世界は大きく変わります。たとえば、海水の2℃の違いで魚の大移動が始まります。魚にとっての1℃は人間にとっての10℃にあたるようです。食卓から魚が消えるかもしれません。2℃の違いでどんなことがおこるのか、本書ではわかりやすく紹介しています。

『すごい空のを見つけかた』

武田 康男／写真・文 草思社（2008年）

なにげなく外を見たとき、あまりの空の美しさに心を奪われたことはありませんか。この本にはきれいな空の写真がおさめられています。グリーンフラッシュや彩雲など、空の不思議な現象がおこる理由やどうすれば見られるのかを実体験と科学的にわかりやすく紹介しています。また、空の写真をうまく撮れない人のために「空を撮るときに気をつけることは？」というコラムもあります。



『脳はなにかと言いつける』

人は幸せになるようにできていた！？』
池谷 裕二／著 祥伝社（2006年）

私たちの体の中の重要な器官である脳。脳についてご存じですか。この本は脳にまつわる知識や考え方を述べた本です。脳には不思議なことがいっぱいあります。私たちは「意識してできること」よりも「無意識に脳が実行していること」の方がはるかに多いのです。

無意識を知ることが、脳を知ることへの第一歩です。さあ、一緒に無意識の世界へ踏み出しましょう。

『知識ゼロからの ダーウィン進化論入門』

佐倉 統／監修 幻冬舎（2010年）

ダーウィンって何した人？進化論ってきいたことあるけどよくわからない。そんな人におすすめです。本当に知識ゼロからでもわかりやすく書いています。進化のメカニズムやビーグル号での航海の様子、ダーウィンの交友関係などこの本1冊でまるわかりです。

進化論用語辞典が巻末についているのでこちらも参考にしてみてください。

『タマゾン川』

多摩川でいのちを考える』

山崎 充哲／著 旬報社（2012年）

東京を流れる多摩川はいま、清流を代表する魚であるアユが100万匹ものぼってくる川になりました。魚の数だけでなく、すんでいる魚の種類もどんどん増えています。しかし、いいことばかりではありません。遠い国からやってきた色とりどりの魚たちや肉食の魚たちが当たり前の顔をして泳ぎ、多摩川の自然をおびやかしているのです。なぜ、そういうことになったのか、一緒に考えていきましょう。